千葉県少年野球地域選抜６年生大会

大会競技規則

１．最新年度「公認野球規則」並びに全日本軟式野球連盟が発行する最新「競技者必携」及び「大会特別規則」を適用する。

大会特別規則

（出場資格及びチーム構成）

１．大会出場資格は、特定非営利活動法人千葉県少年野球連盟（以下「法人」という）の構成会員（以下「チーム」という）であり、最終日の試合まで参加できるチームであること。

２．チーム構成は、成人者による代表者、監督、コーチ（2 名）、スコアラー、介護員（成人女性 2 名以内）と選手（６年生）17 名以上 20 名以内とする。ベンチ入り指導者（監督、コーチ）に於いては認定指導者有資格者とする。

３．このチームの代表者は地域理事とする。但し、地域理事が参加出来ない場合に限り、地域理事が指名した者が代表としてベンチ入りすることを認めることとする。

４．監督、コーチ等の指導者は地域に於いて決定した者があたることとする。但し、ベンチ入り指導者は必ず３名以上の指導者認定証を持参すること。（メンバー確認の時に認定証の提出を求め確認する）。

５．選抜する選手は、地域に所属のチーム内から広く選抜するものとし、４チーム以内からの選抜は認めないものとする（５チーム以上）。

６．出場チームは、この法人の定款、大会規則、大会特別規則を遵守するとともに、代表者、指導者及び選手を所属地域以外から補強及びその他の不正を行うことを禁止する。

７．前項に違反した場合は、没収試合とし相手チームに勝利を与え、後日協議し処分を言い渡す。

（服装・用具）

１．同一チームの監督・コーチ・選手は、統一されたユニホームまたは、所属チームのユニホーム・帽子・ストッキング・アンダーシャツを着用すること。但し、代表者・スコアラー・介護員の服装は平服とし、帽子（連盟役員の帽子も可）を着帽し、靴は運動靴またはアップシューズとする。

２．背番号は、監督 30 番、コーチ 29 番・28 番、主将 10 番、選手は０番から 27 番とする。背番号の重複は認めない。

３．スパイクシューズは、監督・コーチ・選手全員とも統一か所属チームのものとする。（金属歯のスパイクは禁止する）。

４．ヘルメットは「ＪＳＢＢ」公認マーク入りで両側にイヤーラップの付いた物を最低８個用意し、打者・次打者・走者・ベースコーチ・ボールボーイは必ず着帽すること。

５．捕手（控え捕手も含む）は、マスク（スロートガード付）、レガース・プロテクター・ヘルメット及びファールカップ（女子選手は除く）を着用すること。

６．投手の守備を除く選手（打者・守備）の手袋の使用は認めるがリストバンドの使用は禁止する。

7．使用球は、全日本軟式野球連盟公認球「Ｃ号球」とし、金属バットは「ＪＳＢＢ」公認マーク入りのものに限る。但し、破損（変形）・加工バットの使用は禁止する。

（抽選会・開会式）

1．大会の出場チームは決められた日時までに「法人」宛に選手名簿を提出し、開催前に行われる理事会で各地域の理事によって組合せ抽選会を行い大会トーナメントを決定する。

2．大会の開会式での選手宣誓は、組合せ抽選会で１番クジを引いた地域の主将が行うこととする。

3．大会開会式での各地域チームの集合時間は、開会式 30 分前までに受付を終了し、選手は指定された入場行進場所に整列していること。

4．各チームの入場行進順は、先頭が前年度優勝地域チーム、続いて抽選番号の若番からプラカードを持つ者が先頭で背の低い順に並んで行進する。

5．大会に出場する選手は、開会式に参加するものとし、特別な理由がない限りこれに違反した場合は、試合に出場することは出来ないものとする。

（試合の集合時間・準備）

1．第１試合のチームは、試合開始予定時刻の１時間前までに集合し、指導責任者により受付を終了すること。第２試合以降も同様とする。

2．試合中止の場合は、大会本部から各地域理事に連絡する。連絡が無い場合は試合会場に集合する。

3．メンバー表の提出は、第１試合は試合開始時刻 30 分前、第２試合以降は 40 分前までに監督・主将が 5 部持参し、グランドルールや注意事項等を確認すること。但し、特別な理由がない限り、前記時間内にメンバー表の提出がない場合は、監督のベンチ入りは認めないこととする。

4．ベンチは抽選番号の若番が１塁側とする。先攻・後攻はメンバー表提出時トスにより決定する。

5．試合前のシートノックは、後攻のチームから開始し、時間は５分間とする。但し、前の試合の遅れや天候不安定等が生じた場合は、短縮または中止して試合を開始する。

6．シートノック時のユニホーム着用指導者は、シートノック及び選手からの返球の捕球及びブルペンでの投球練習の捕手を行うことは認める。但し、試合開始後はこれらの補助は認めない。

7．シートノックを行うノッカーにボール渡しをする選手は、ヘルメットを着帽の上前方からのトス渡しとする。試合中での球審へのボール渡しをするボールボーイも必ずヘルメットを着帽する。

8．ベンチ入りの代表・監督・コーチ等の指導者が試合中にベンチを離れた場合は、退場したものと見なし再びベンチに戻ることは出来ない。但し、特別な理由（トイレ等）で至急を要する場合は審判員の許可を得ればこの限りではない。

（試合時間等）

1．この大会の試合はトーナメント戦とし、1 試合 7 回均等回で勝敗を争うこととするが、タイムゲームを最優先する。1 試合 1 時間 30 分を超えた時は、新しいイニングに入らずその時点の得点を持って勝敗を決する。決勝戦も同様とする。

2．得点差によるコールドゲームは、5 回均等回終了後以降 7 点差以上の時に適用する。但し、決勝戦に於いてはコールドゲームは適用しない。但し、タイムゲームは適用する。

3．日没・降雨により試合の続行が不可能と判断した場合は、４回均等回終了時点でコールドゲームを適用する。４回均等回終了以前の場合はノーゲームとし、後日再試合とする（但し、４回表が終了した時点で後攻チームがリードの場合は、４回均等回終了とみなしコールドゲームを適用する）。

４．１試合のタイム数の制限：7回で攻撃側３回、守備側３回、特別延長戦は１回に付各１回とする。守備時に３人以上が集まればタイム１回と見なす。またタイムゲームのため攻守交代時には１分間ルールを適用する。

（試　　合）

１．同一投手の投球回数は１試合３イニング（特別延長戦も含めて９アウト）とする。1日2試合の場合は、2試合目も同様とする。(1日の合計６イニング18アウト)。

２．投手の変化球は禁止し、変化球に対してはボールを宣告する。再度繰り返した場合は、その投手は交代させる。(その試合での再登板も認めない)。

３．打者走者及び走者は、走塁の時ベースコーチまたは選手に触れてはならない。その場合は走塁補助と見なしアウトを宣言する。

４．死球等により手当が必要とする場合には、臨時代走（コーティシーランナー）を認める。代走は打順前位の者**（投手・捕手を除いても良い）**とする。

５．審判員に対するアピールは、監督と当該選手に限り認める。

６．選手交代を行うときは、監督が球審に申告する。メガホンの使用は、監督に限り認める。

７．監督が投手と協議するときは、マウンドまで駆け足を励行すること。また選手への指示についても同様とする。但し、同一イニングに同様の行為を2回行なった場合は、選手を交代させる。

８．アウトを取る意思のない投手の牽制・送球は遅延行為と見なし審判員はボークを宣言する。

９．**相手チームに対して悪質な抗議・野次等を行うチームには、当事者または代表・監督の退場を大会責任者・球場責任者・当該審判が退場を命じることが出来る。少年野球にふさわしい応援で望むこと。**

10. 仮設球場等の場合は、球場責任者が球審と両チームの責任者に対してローカル・ルールの適用を説明し試合を行う。

（特別延長戦）

１．7回終了後または1時間30分を超え、後攻の攻撃終了時で同点の場合は、特別規則を適用し、直ちに「特別延長戦」を実施すること。

２．打者は前回の継続打者、走者は前回の最終打者が１塁として２塁・３塁の走者は順次前打者として１死満塁で１イニングを行い、点数の多いチームを勝者とする。1回で勝者が決定しない場合はさらに継続打順で１イニング行い、なおも勝者が決定しない場合は抽選とする。(※抽選方法は、球場責任者・責任審判員の指示に従う)。

３．特別延長戦での選手の交代は認める。但し、既に交代した選手との交代は認めない。

（附　　記）

１．試合会場（フィールド外を含む）に於いて、試合前の練習等での選手のバットの使用は禁止する。

２．**ベンチ入り後の指導者によるバットを使った守備ノックと選手のベンチ前での素振り（指導者立会いのもと）は認める。**

３．**試合前のメンバー交換後、次試合の両チームの先発バッテリーのブルペンでの投球練習を認める。但し、ベンチ入り１０分後にシートノックを開始する（時間の短縮を目指すため）。**

４．各会場に於いては、ベンチ内への組立椅子・机等の持込・使用は禁止する。なお試合終了後はグランド整備の手伝いとベンチ内の清掃を行うこととする。

※以上の大会特別規則は2016年4月1日付で改訂しました。